

# 「発達障害児の早期発見・早期療育のシステム化に関する研究」の総括

有馬 正高 神経センター疾病研究第二部

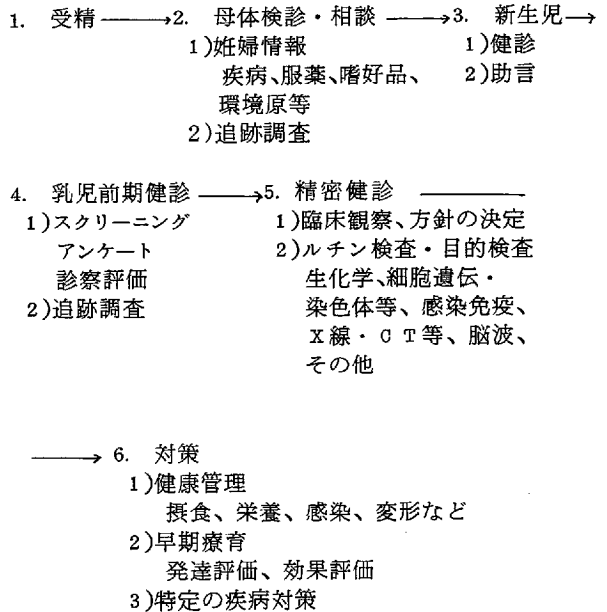
## 目的

母子保健システムの充実に関する研究班の分担のなかで、本研究班は乳幼児の集団健康診査における早期発見の方法、疑いがもたれた場合の精密検査および確定診断、その後の対策の方向など一連の流れで指針を示そうと試みてきた。健康診査において発見すべき異常は多いが、本研究班は、特に、精神運動面の発達にリスクのある乳児の発見と対策に重点をおき具体的な設問を定めて研究をすすめることにした。本研究の意義は、発見、対策、特定の疾病対象など、従来、個別に行なわれていた研究項目を一つのグループで扱い、現在の医学や療育水準のなかで望ましい長期的対策のための基礎資料を得ることを企図した点にある。

## 研究分担の概要

保健システムという視点にたつ場合、発見は事後の対策につながるものでなければならない。特に発達障害は頻度が高く、早期から長期にわたり医療その他の指導を必要とするものが多いので、事後の対策について明確な指示がないと家族や現場の不安をつのらせることが多い。このような経験から、研究グループのテーマを、1) 妊娠中のリスク情報の収集と追跡調査を含むパイロットの研究、2) 乳児前期健康診査におけるチェック方法についての試案の作製とその有用性の検証、3) 発達遅滞が疑われた時の医学的検査、特に検査室における診断のための検査の選択とそれぞれの効率の確認(陽性率、陰性率など)4) リスクをもつ乳幼児に対する日常指導の方向とその効果の評価、5) 摂食障害、感染、貧血など発達障害児が日常遭遇しやすい健康上の問題の評価とその対策の各項目に分けた(図1)。

図1 早期発見、早期対策に必要な流れと研究分担



本研究班で各研究協力者のとり上げた項目は 2. 1)および2) 4. 1)および2) 5. 1)および2) 6. 1)および2) である。

特徴として、それぞれのグループについて実施した結果を統計的な数字として示すように努めたことである。これは、この種の研究がややもすると列や印象の記述に留まり、そこから生ずる提言に具体的な根拠が乏しくなりがちであることを慮ったからである。たとえば、発達遅滞の原因を知るために行なわれるいろいろな臨床検査が、実際にどれ位の陽性率を示すのかということを知らなければ検査の優先順位を定めにくく無駄な負担をかけることになる。また、療育についても対照をおいた評価を加えなければその有効性を

明らかにできず、努力しても説得性が乏しいことになる。発見から対策へと一貫した流れを考える場合に客観的な基礎資料の著積が不可欠と考え、各研究協力者の年次毎の成績もこのような観点にもとづいてまとめられた。十分な解答が得られなかった部分があることは否定できないが、全般的にみて今日の医学的水準から最善に近い報告がなされたと感じている。

なお、昭和60年度に入り、新たに、乳幼児健康診査のあり方に関する小委員会をもうけ、現今の集団健康診査のシステム全体について討議を行った。これは、発達障害の問題をとり上げる場合においても、そのもとになる乳幼児健康診査のあり方について配慮すべきであるという要請にもとづいたものである。問題は多岐にわたるが、この小委員会における意見を要約し、本年度の研究報告に一章として集録した。

## 乳幼児集団健診のシステムに関する今後の方向

3年間の研究および討議の結果から次のような対策を重点的にすすめることが必要と考える。

### 1. 乳幼児の健診内容の充実

早期の対応を必要とする項目を時期ごとに設定し、健診のガイドラインを作製し、全国的に普及、水準の向上をはかる。内容として、対象とする疾病異常や障害の種類、そのリスク徴候の発見の手段、事後措置に関する相談、それぞれの地域および家庭環境にふさわしい助言、予防に関する広報などを含む。

### 2. 事後措置の体制の充実

疾病異常およびリスク児に関し正しく対応できるよう、特に医学的検査（生化学、細胞遺伝などを含む）、発達評価、治療、および指導に必要な各種の専門機関のネットワークを地域ごとに確保する。診断およ

び療育技術の普及については一定以上の水準にあるかどうかの評価とともに、時代の進歩を取り入れて適宜に改良発展しうるものでなければならない。今後の重点項目の1つとして、明確な異常と断定しがたいが将来にわたり追跡、指導を要する境界グループ（リスク児）の対策が重要であり、システムと予算措置が必要であろう。

### 3. 継続的な対応と援助の推進

出生前から幼児にまたがり、長期的な視点で子供の健康の増進をはかることに役立てるため、妊娠から生後一定の時期まで一貫した健康上の情報を整備する。

保護者がその子供の健康増進のために必要とする時に有益な資料を随時提供できるような工夫が望まれる。

### 4. 未解決の問題に対する研究

わが国の母子保健の平均的水準は国際的にみて優れたレベルに達しつつある。しかし、長期の療育を必要とする先天異常や各種の発達障害は多数発生しているから国家的な見地からその対応が要望される。特に、先天異常や発達障害の原因究明、早期発見と早期対応による重度化の防止、乳幼児期の事故の防止、地域および家庭環境の変化が心身の健康におよぼす影響などについて多数例についての縦断的な研究が必要であろう。同時に、政令都市、大都市、中都市、町村などのレベルにおける健診の効果をいくつかの観点から判定し、全体の水準の向上に役立てる比較研究を実施することが望まれる。それらに関連して、専門職種や関係機関相互の垣を越えた長期的な目的研究と、研究実績の評価が不可欠であろう。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 目的

母子保健システムの充実に関する研究班の分担のなかで、本研究班は乳幼児の集団健康診査における早期発見の方法・疑いがもたれた場合の精密検査および確定診断、その後の対策の方向など一連の流れで指針を示そうと試みてきた。健康診査において発見すべき異常は多いが・本研究班は、特に、精神運動面の発達にリスクのある乳児の発見と対策に重点をおき具体的な設問を定めて研究をすすめることにした。本研究の意義は、発見、対策、特定の疾病対象など、従来、個別に行なわれていた研究項目を一つのグループで扱い、現在の医学や療育水準のなかで望ましい長期的対策のための基礎資料を得ることを企図した点にある。